

**令和8年度 第1回
富田林市男女が共に生きやすい社会づくりを推進する審議会議事録**

●開催日時:令和8年7月14日(火)午後3時30分～

●開催場所:多文化共生・人権プラザ TONPAL 3階 会議室

●審議会委員

和田 美智代	大阪経済大学
星野 智子	大阪緑涼高等学校
栗田 昌	大阪大谷大学
田中 浩子	(有)フェミニストカウンセリング堺 所属カウンセラー
村上 貴誠	河内長野公共職業安定所 次長
菊池 寛之	大阪法務局富田林支局長
楠 浩子	市立喜志西小学校 校長
鶴岡 弘美	市民公募委員(男女共同参画リーダー養成講座修了生)
増永 みさえ	市民公募委員(富田林の女性問題を考える会)
山口 純弘	市民公募委員(一般公募) [欠席]
伊東 賢伸	若者会議参加者より選出

●議事次第

1. はじめに

2. 議事

案件1 第4次富田林市男女共同参画計画の骨子案について

3. その他

●議事内容(要約)

1. はじめに

■委員紹介

■部長挨拶

■事務局紹介

■資料確認

■今後のスケジュールについて

■提案事項

(1)委員の任期について

(2)会議録の公開表記について

2. 案件1 第4次富田林市男女共同参画計画の骨子案について

■事務局説明(資料1、資料2参照)

■審議

- ・ 学校生活における男女混合での着替えや配慮について委員より質問

委員の質問

小学校低学年において、体育の前に男女が同じ部屋で着替えている実態が全国にあるという報道を見たが、富田林市ではどうか。

委員の回答

市全体で明確な一律規定はないが、こどもの性自認や多様性への配慮から、各学校の判断で部屋の確保やスペースを仕切るなどの配慮を約10年前から実施している。

- ・ 計画期間の設定を10年ではなく5年にする提案

委員の意見

社会情勢の変化が非常に早いため、10年計画ではなく「5年計画」にしてはどうか。また、数値目標を掲げてPDCAを回す上でも、5年スパンの方が実効性が高い。

事務局の回答

当初は従来の10年計画(3年毎の実施計画更新)を想定していたが、情勢や目標数値に柔軟に対応するため、当初から5年計画とすることや10年計画として

5年で中間見直しを行うことも前向きに検討し、課内で調整する。

・ ジェンダー平等の意識啓発について

委員の意見

市民アンケートで性別役割分担意識が見られるため、適切な情報を周知することが重要。それには若者の力を使うことが効果的だと思う。

委員の意見

市民の関心が高い具体的なテーマを提示して議論をしてはどうか。

委員の意見

市役所男性職員の育休取得状況などを「見える化」して発信することが、若い世代の意識改革に有効だと考える。

事務局の対応

いただいた多様な意見を踏まえ、市民への情報提供や効果的な調査方法を検討し、今後の計画案に反映させていく。

(4) 「部落差別(同和問題)」および「マイノリティ女性」の表記について

委員の意見

重点目標4において、他の項目(ひとり親、高齢者、性的マイノリティなど)は「人」を指しているのに、「部落差別(同和問題)」だけが差別そのものを指している。「部落差別を受ける可能性がある人」などの「人」を表す表現に変更してほしい。

委員の意見

聞き慣れない表現である「マイノリティ女性」(複合的な差別・困難を抱える女性)について、計画書内に注記・説明を入れてほしい。

事務局の回答

大阪府の最新計画の表現(人表現になっているかなど)を確認します。

・ 用語やドキュメント表記の微修正

委員の意見

「女の子の野心やキャリア形成を阻害」という表現の「野心」はマイナスイメージがあるため、「チャレンジ精神」「向上心」「主体性」などに変更してほしい。

委員の意見

市役所の管理職の割合について、その該当年齢層の男女の比率によっても変わってくると思うがどうか。

事務局の回答

指摘箇所について検討し、文言の修正を行う。女性管理職の割合についても客観的な分母(職員全体の男女比等)を示して表記する。

・ 男性の育休取得に伴う上の子の保育園通園について

委員の意見

両親がともに育休を取得した際、上の子が保育所から一時退園を求められるようなことがあってはサポートにならないため、配慮してほしい。

事務局の回答

富田林市では、育休取得を理由に退園させることはない。預かり時間にきまりはあるが、継続して預けることが可能である。

・ 計画の章構成や名称について

委員の意見

第1章にある「富田林市の取り組み」は、第2章の「現状と課題」に組み込んだ方が自然ではないか。

委員の意見

「序章」という名称は違和感があるため、市長の言葉などを掲載するなら第3次計画と同様に「はじめに」とすべき。

事務局の回答

指摘に同意し、第2章に組み込む方向で整理し、「序章」についても「はじめに」という構成にする。

・ 防災・復興における女性参画の具体化と比率向上

委員の意見

地震や大雨の災害時に避難所で女性を守る仕組み(授乳スペース確保や性暴

力対策など)の取り組み記述が、計画上1行しかないが、いかがなものか。

委員の意見

防災会議等における女性比率(現状20%)をさらに引き上げるべき。

事務局の回答

危機管理室にて、地域防災計画の中に女性への暴力防止等の対策を明記している。また、女性に限らず防災リーダーの養成を推進しており、地域の避難所運営でリーダー層に活躍してもらう環境を作っている。

防災会議の女性比率は20%に留まっているのは、部長職(あて職)の男性率が高いことが原因であるため、女性職員への交代可能範囲の検討や、構成する他団体に対しても女性委員を推薦してもらうよう働きかけを行っている。

・「ワーク・ライフ・バランス」の表記について

オブザーバーの意見

人生において「ライフ」の重みは重要であるため、「ワーク・ライフ・バランス」だけでなく、「ライフ・ワーク・バランス」という表現も念頭に置いて表記を考えてはどうか。

事務局、会長の回答

意見を受け止め、本計画でもその視点を取り入れる方向で念頭に置いて検討する。

3. その他(事務連絡)

閉会